

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500092		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々 春日井(ユニット1)		
所在地	愛知県春日井市木附町字宮後1300-66		
自己評価作成日	令和5年 12月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392500092-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392500092-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人「サークル・福寿草」		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、四季の移り変わりを感じる事が出来るとても贅沢な環境にあります。部屋の中から、夏は蛍が見え、秋は紅葉、冬には山に積もった雪景色はとても綺麗です。見学に来られた方は皆さん環境がいいですねと言って下さいます。御利用者同士とても仲が良くストレスがないのでしょうか。ほぼ全員の方が白髪から黒髪に生え変わります。御利用者スタッフと共に泣いたり笑ったり、支え合い、そして寄り添い、一日の終わりに今日も楽しかったと感じて頂ける様スタッフ一丸となり頑張っています。又御家族ともコミュニケーションを図り大家族を目指し試行錯誤で毎日御利用者スタッフと一緒に生きています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が長期化していることで、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、今年度に入り、運営推進会議を対面方式での実施を再開しており、外部の方との交流を再開している段階でもある。利用者の外出についても困難な状況が続いていたが、利用者の外出の機会を増やす取り組みが行われている。利用者の意向等にも合わせた買い物を通じた外出や外食に出かける機会をつくっており、利用者の楽しみにつなげている。日常生活については、職員間で利用者に関する意向等の把握を行い、職員間で検討を行いながら介護計画の作成が行われており、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。また、医療面での支援体制に変更が行われており、訪問看護による支援も行いながら、利用者がホームで安心して生活を継続してもらい取り組み行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、常に思いやりの気持ちを持ち笑顔絶やさぬ様寄り添い、お一人お一人の思いを受け止め、心安らぐ毎日を送っていただける様に取り組んでいる。地域密着型という点においては難しい部分もある。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、ホーム内に理念の掲示を行い、職員間で理念の内容を共有する取り組みが行われている。運営母体に変更になっているが、理念については、引き続き同じ内容で引き継がれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時には、地域の方々にも参加していただきおりホームの存在を知っていただける様交流に努めている。散歩時近隣の方にお会いした時は、明るく挨拶をする様心掛けています。	感染症問題が長期化していることもあり、地域の方との交流が困難な状況が続いている。当ホームの土地の地主の方が近隣地域の方でもあり、地主の方を通じて地域の方との交流が行われている。	地域の方との交流が限られた範囲である状況が続いている。感染症問題の状況もみながら、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談、介護保険サービスの説明を行っている。 気軽なホームへの訪問、交流を呼びかけている。 実習生、研修生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	情報交換で、改善課題等を明確にし、参加者の方々の意見を参考にし向上に努めている。 意見、要望を受け止め、取り組んでいる。	会議については、書面による実施が続いていたが、令和5年10月から対面方式での会議を再開しており、会議の関係者との情報交換等が行われている。家族の参加も得られており、ホームへの理解を深めてもらう働きかけが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告書の提出時、又は相談、質問等がある時は直接市役所に出向き、意見を頂くと共に情報交換をしている。必要に応じホームに来ていただいている。	市内の介護事業所が集まる連絡会や研修会等に、可能な範囲で参加する機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターとは、アンケートを受けており、事業に協力する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしない方針でしたが、警察より施錠を勧められ上部のみ施錠を実施。最近不審者が鍵を開け入って来た為現在は上下施錠している。身体拘束に関しては慎重に取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホーム内を自由に移動ができるような対応も行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修が行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については毎月のミーティング時に話し合い、理解、意識を深めている。 言葉使いも虐待につながることに重点を置き、職員全員で責任ある言動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に出席する機会がないのが現状。今後も積極的に時間を作り、知識の向上に努め、活用出来る様に支援して行きたい。個々に学ぶ様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際には主に管理者が説明を行い、理解・納得いただいてから同意を得ている。契約後も不安や疑問点、要望などには説明し、柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、御家族との距離を置かず、気兼ねなく話せる関係作りに努めている。事業所の相談・苦情窓口や第三者機関の相談・苦情窓口を紹介している。	家族との交流が困難な状況が続いているが、面会等、可能な範囲で交流を継続している。利用者や家族からの要望等については、管理者が対応し、内容に合わせて運営法人の幹部職員に報告している。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設運営に関する職員の意見を日常的に聞き取っている。又、毎月のミーティングの際には、意見や提案等、全スタッフで話し合っており、より良いホームにする為に努力している。	毎月の職員会議の機会をつくり、職員からの意見等を管理者が集約し、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。日常的な意見交換の他にも、職員との面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得は奨励しており、働きやすい職場環境に努め、希望休日にも配慮している。体調不良時は勤務交代をしたり、仕事の担当を交代したり、スタッフ同士協力し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門的な知識を深める為研修には出来るだけ多く参加したいが難しいのが現状。研修参加スタッフがいる月はミーティング後講師になり勉強会をしている。又気づきを報告し、職員間での共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームへ訪問や電話での交流を図ったり、研修を通してのネットワークづくりに努め、職員同士の意見交換や人的交流をし、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身状態をしっかり見て、思いや不安を傾聴することにより、安心感を持っていただき、信頼関係を築けるよう努めている。表情や仕草からも読み取れる様、寄り添いながら会話する時間を多くとる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている事は何か、何を求めておられるのかをしっかりと傾聴したうえで話し合い、安心していただける様又納得していただける様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族のお話をしっかりとお聞きし、最優先する支援を見極める様に努めている。御本人、御家族の思いや不安を受け止め、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、御利用者に対し尊敬の気持ちを常に持ち、色々な事を教わり学び指導して頂き、自己向上に努めている。又御利用者の出来ない事をお手伝いし、お互い支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には、日頃のホームでの様子を報告している。又、変化があった場合は電話で報告し、御家族には現状を理解していただき、職員と共に御利用者を支える支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来ていただける事を大切にしており、昔の同僚や近隣の方、友達の訪問が継続出来る様に支援している。面会時一緒に食事する事もある。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、遠方に住んでいる身内の方との面会が実現する等、入居前からの関係継続の支援が行われている。家族との外出も行われており、身内の方の葬儀に出かける等、交流の機会がつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係が築け、会話が楽しめる様なテーブルの配置をし、御利用者全員が穏やかに過ごせる様に支援している。コロナ前は月1回、市から介護相談員が来られていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、面会に行ったり、家族から電話連絡があったり、出来る範囲の関係維持に努めている。契約終了の際には、いつでも相談に乗りますと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いの把握に努め、出来るだけ柔軟に取り組んでいる。本人の意向を把握するのが困難なケースでは、日々の生活の中で、ご本人が発せられた言葉をそのまま記録をし、把握に努めている。	職員全員で利用者に関する意向等の把握が行われており、日常的に情報を共有する取り組みが行われている。職員間で利用者に関するカンファレンスも実施し、利用者や家族意向等を検討し、日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主に計画作成の段階で、御本人・御家族より生活歴を聞き取り、アセスメント作成している。これまでの生活を生かせる様計画をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングを通し、心身状態を総合的に把握出来る様努めている。又一日の過ごし方も毎日記録し、現状の把握に努めている。記録ノートを重視し、スタッフ同士の情報を密にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御利用者、御家族の意向や希望、今出来る機能を維持する為の課題、職員からの気付きや意見を取り入れ、介護計画を作成しており、毎月のミーティング時議題にあげ、計画の見直しに取り組んでいる。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、一人ひとりに合わせた支援内容の検討が行われている。職員間で情報交換を行いながら、利用者に関する変化等の把握を行い、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録にケアプランを載せており、いつでも見れる様になっている。円滑に介護が行える様報告、申し送り、連絡ノート等で実施している。ケアの実施結果は毎月のミーティングの場で話し合い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具等も利用しており、業者さんにアドバイスを頂き、事業所の出来る範囲で柔軟に対応し支援している。問題発生時には素早く対応し、その時必要な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベント以外に、ご近所に招待を受け、もちつき大会に参加したり、御利用者と一緒に避難訓練、消火訓練、救急救命訓練に取り組んでおり、地域資源との協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、かかりつけ医や希望する医療機関などの確認をする。現在は、月1回の往診で、ほぼ全員の方が診てもらっている。緊急でかかる場合の病院の確認も行い、御本人、御家族の希望を聞いている。	協力医療機関の変更が行われており、現状、全員の方が協力医をかかりつけ医としている。協力医とは、定期的及び随時の医療面での支援が行われている。また、訪問看護による医療面での支援や協力医との連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は在籍していない為、スタッフ同士が情報交換や日頃より御利用者の健康管理や状態変化の把握に努めている。必要時は訪看さんに連絡し助言を受けており医療との連携にも繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、現病状、今後の治療方針などの説明を受け、ホームから病院には介護サマリーを提供し、常に情報交換している。また退院後、スムーズに受け入れ出来る様、情報提供書や介護サマリーなどの提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認しながら、主治医からの説明、助言を受けている。又ホームでの可能、不可能を明確にし、御家族と職員と話し合い、方針を固めている。令和5年10月に13人目の看取りをしました。	身体状態が重い方も生活を継続できるように支援が行われており、利用者の看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、ホームで支援可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会をホームにて実施した事はあるが、定期的に行っていないのが現状で、全ての職員が実践力が身に付いてはいない。勉強会も含め、定期的に行って行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、御利用者と一緒に通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施している。地域との協力体制は築けておらず、取り組みたい課題の一つです。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。通報装置の誤作動が起きたことで、改めて消防署との連携が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	近隣の方との交流が困難な状況が続いていることで、非常災害に関する協力関係も困難な状況が続いている。運営推進会議の再開等を通じて、可能な範囲で非常災害に関する情報交換等につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには最大の注意を払って仕事に従事している。その方の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。	基本理念にも掲げられているように、利用者か日々の生活の中で心が安らぐことができるように、職員による利用者への対応や言葉遣い等に関する注意喚起等が行われている。職員の接遇につながる研修も実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の出来る御利用者が少ない為、生活のいろいろな場面において、さりげない会話の中で表情、反応など観察し、本人の気持ちや希望を聞き出す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペース、その日の体調に合わせたケアに努めている。 特に希望のない方には、スタッフ側から、いくつか提案し選択してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は2ヶ月に1回訪問美容の方が来て下さり、全員カットしてもらっています。洋服は本人に選んでいただいている。日々の生活の中での身だしなみには気配りしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやお盆拭きなど、役割を持ち、利用者同士が協力して取り組む場となっている。準備は出来る方には参加して頂いている。会話の中で食べたい物を聞いたり、広告を見て食べる意欲を引き出している。	食事に関しては外部業者も活用しながら提供が行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。利用者や誕生日等に合わせたケーキ等が提供も行い、楽しみにつなげている。また、食事の際には職員も同じ食事が行われている。	おやつ作り等の取り組みについて、現状、限られた範囲となっていることもあるため、今後に向けて、取り組みが増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個人記録に記入することで、必要量が確保出来ているか把握している。毎日摂取量の把握の他、毎月の体重管理を行い、栄養状態を見る目安としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科受診は、かかりつけ医と連携を図っている。現在は月1回往診に来ていただいている。。食後の口腔ケアは毎食後行い、必要に応じ口腔ウエット、スポンジブラシ等使用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄、排泄動作の維持、個々に合わせた支援を行っている。トイレで排泄する事により汚染を防ぎつつ清潔を保ち、トイレでの排泄を支援している為オムツ等の削減になっている。	利用者の排泄記録を残し、職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に職員間で声かけ等が行われている。また、協力医や訪問看護とも連携しながら、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表にて排便の有無の認識をしている。内服が必要な方には、日中に排便習慣がもてるよう、内服時間を考慮し取り組んでいる。毎朝体操をしている。月に1~2回朝食にパンをお出ししている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分や体調を確認した上で、入浴時間は本人の希望を聞き決めている。安全に十分気を配り、一番リラックス出来る場所なので、時間をかけて入浴を楽しんでもらっている。	利用者が1日おきを基本に入浴できるように、入浴を拒む方も声かけ等の対応が行われている。利用者の希望に合わせて、毎日のような入浴している方もいる。また、季節等にも合わせた入浴も行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態や生活リズムに合わせて支援を行っている。布団干し、シーツ交換を頻繁に行い、心地良く眠って頂ける様に心掛けている。真夏、真冬の居室の温度は特に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録ファイルに、服用中の薬の説明書がある。薬の飲み忘れや誤薬がないよう職員2人で確認の上、職員が必ず内服確認をしている。薬変更時は申し送りノートに記入してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を生かし、活力や喜びにつなげるよう共同作業参加への促し、特技を生かしたレクの提供等の支援。御本人、御家族から得意な事をお聞きし、日々楽しめる事をやって過ごして頂ける様に心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩以外に個々に買い物に出かけている。最近では全員での外食は困難な為、行ける方のみ外食している。以前の様に泊旅行も全員で行きたが現状は難しい。ホーム内の生活に留まらないようにする事が課題。	利用者の外出が困難な状況が続いていたが、今年度に入り、徐々に制限の緩和が行われており、利用者の外出の機会を増やす取り組みが行われている。利用者の意向等にも合わせながら、買い物に出かけたり、外食を楽しむ支援も行われている。	利用者の外出の機会が徐々に増えていくこともあり、今後についても、利用者の外出の取り組みが増えることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にてお金は所持していない。買い物時選んではもらうが、支払いはスタッフがしている。時にはスタッフが見守る中、支払ってもらう事もある。旅行時スタッフ見守りの中買い物し支払いもしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の状況、希望に応じて対応している。電話したいと希望された時にはしてもらい、かかって来た時同様、静かな所でゆっくり話せる様にしている。手紙が来た時は返事を書きましようと思いを掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には御利用者の作品と旅行時の写真が貼ってあり、ホールには行事の写真が沢山貼ってあります。自然の採光と風通しが良く、フロアは椅子以外にソファを配置し、くつろげる空間を作っている。	ホーム内は広め空間が確保されており、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。リビングの壁面等には、利用者の暮らしぶりを写した写真や利用者の作品の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のテーブルは全員の顔が見れる様丸く配置してある。一人になりたい方は自室で過ごしていただく様にしている。ソファもあり職員や入居者同士が過ごせる場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの制限はしておらず、逆に出来るだけ本人の大切な物、馴染みの物を持って来ていただけるように説明している。本人にとって少しでも安らげる空間作りに努めている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等が持ち込まれており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、クローゼットが設置されていることで、車椅子で生活している方も居室内を広く活用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の機能を維持出来る様に過剰な介護はせず自立支援に努めている。歩行場所には障害物をなくし、転倒防止に努めている。居室は御利用者が安全に動きやすい様配置し、快適な生活が送れる様にしている。		